

MONTHLY NEWS LETTER

3

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

March | 2024

高橋FPの社長が知りたいお金の話

大綱で読む2024年度の税制改正（暮らし編）

達人に学ぶマネーの哲学

フィリップ・アーサー・フィッシャー

投資とビジネスに役立つ行動経済学入門

ヒューリスティック

3月の主要経済カレンダー

ECB 理事会、金融政策決定会合、米FOMC ほか

マネークリップ

米国株のリスクを考える

12星座の秘密

うお座

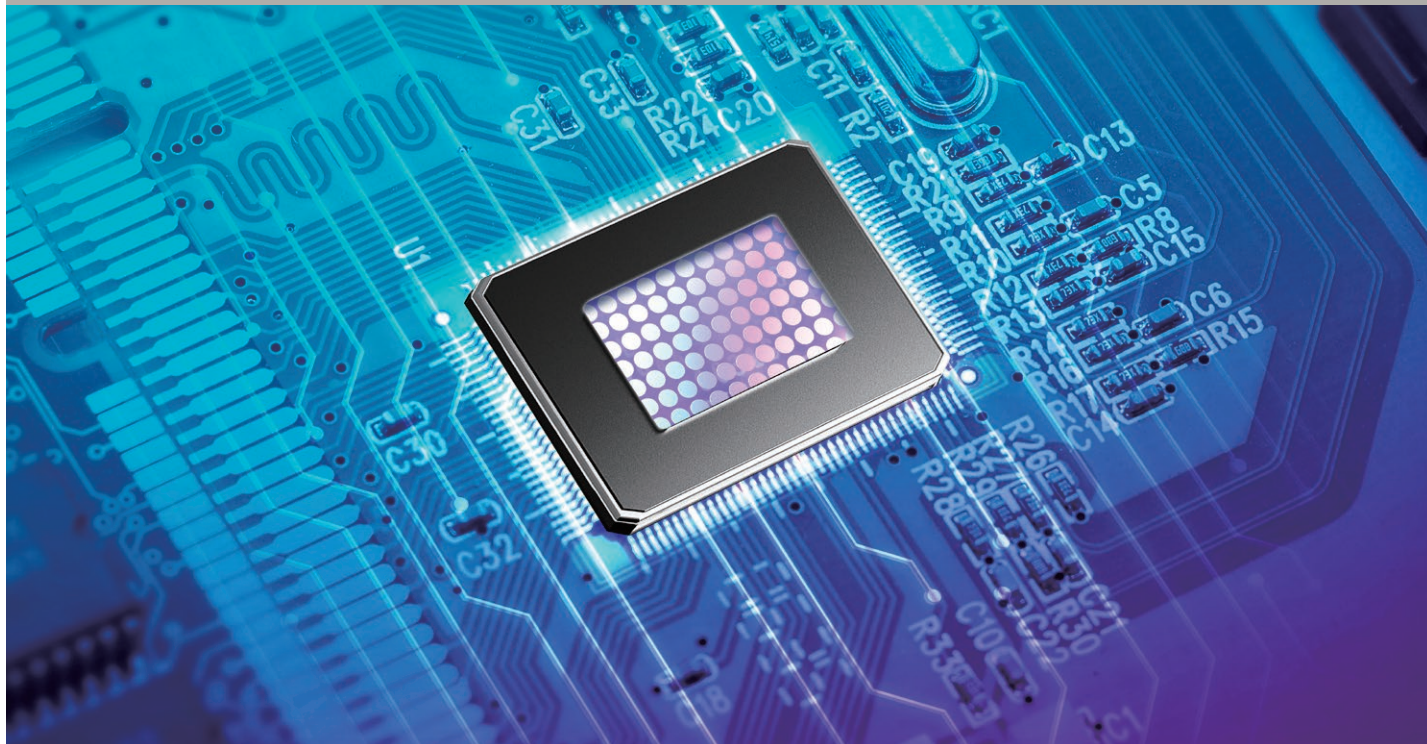


写真:アフロ

未来を支える産業のコメ

半導体業界について考える

この先、期待される産業の1つである半導体。ハイテク産業の基盤となるだけに注目度も高い。今月は同業界のトピックスを少し見ていこう。

このところ、大きな地殻変動が起こっている半導体業界。それを象徴するのが、半導体メーカー収益ランキングの変化。米調査会社ガートナーによると、半導体企業の収益は2023年に前年比およそ1割減少。特にメモリに関しては4割減に近い水準の記録的な落ち込みとなった。このような中で「独り勝ち」だったのが、エヌビディア。前年比1.5倍の収益をたたき出し、初めてトップ5に入った。株式市場では昨年時価総額1兆米ドル企業に仲間入りし、半導体企業で時価総額No.1となった同社だが、成長力を買われてのものであることが分かるだろう。

2024年は全体的な回復に期待

さて、業界全体ではやや低調だった半導体だが、2024年には反発が期待されている。世界の半導体メーカーが加盟する世界半導体市場統計(WSTS)では、今年は前年比+13.1%と市場が再拡大するとの予測だ。

2024年のけん引役の1つとして期待されるのが、人工知能の活用の広がりだ。私たちが使うパソコン(PC)などもより高度なものに進化し、それがさらに需要を押し上げる可能性もある。人工知能の活用プロセスには、大きく分



けて、処理をするために必要な情報を整理・体系化する「訓練」と、「訓練」した内容に基づいて結果を返す「推論」の2つの工程に分かれる。これまでの人工知能は基本的にデータセンターで全ての処理を行っており、端末側は結果を受け取るだけとなっていた。この「推論」を端末側で実行できるように性能を向上させたのが、AI PC。定義が明確に定まっているわけではないが、これまでより高速の演算処理が可能なチップがPCに搭載されている。半導体最大手のインテルは昨年12月、複数の半導体を組み合わせた「Core Ultra」というAI PC向けの半導体を発表。2028年までにPC市場の8割がAI PCに置き換わるという見方を示した。クアルコムやアドバンスト・マイクロ・デバイセズなども処理能力の高いチップを昨年発売している。2025年のWindows10サポート終了と併せ、このような動きがデジタル端末の需要回復につながるかは、半導体業界にとっても大きな注目ポイントとなるだろう。

日本株を考える上でも重要な産業

日本でも官民を挙げて、半導体産業の復活をかけた様々な取り組みが行われている。日本企業は半導体の製造装置や主要な材料で、技術力を生かして高いシェアを誇る。半導体は日本の主力産業の1つと言えるだろう。日経平均を見ると、構成銘柄上位の半導体関連企業6社で、時価総額の2割近くに達する。一般に半導体関連としては認識されないが、同じく日経平均に占める構成比率の高いソフトバンクグループは、半導体設計のアームホールディングスの株式の90%を保有するなど、同業界と関わりが深い。2024年に入り騰勢を強める日本株市場だが、そのカギを握る業界と言っても過言ではなさそうだ。

AI PCが普及するかどうかは見極めが必要だが、高い処理能力の半導体チップの生産には、製造能力の増強が必要となる。歩留まりも考慮すると、かなりの投資になりそうだ。また製品のテスト工程も複雑化し、より重要なものとなる。日本の半導体材料・製造装置はもともと中国メーカーの積極的な投資の追い風を受けていたが、2024年後半からは半導体市況回復の恩恵も期待できそうだ。当社グループでは、特に東京エレクトロン、ディスコ、アドバンテストに注目している。

*

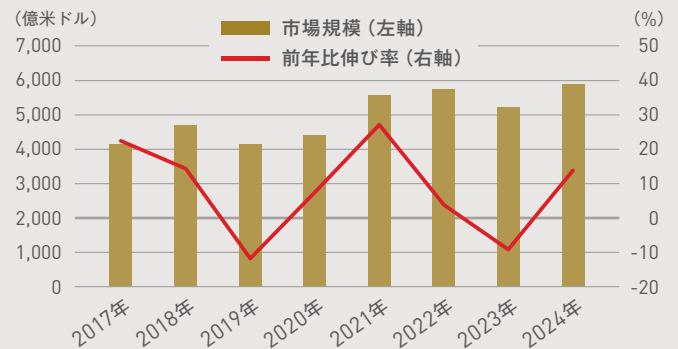
最近の動きを簡単に見てきたが、半導体はデジタル領域の恩恵を受ける成長産業であり、特にハイテク関連の投資を考える上では外せない業界だ。一方で、専門用語など難解な部分もあり、また政策や貿易などのテーマに絡む部分も多い。投資にあたっては情報のキャッチアップや学習が欠かせないだろう。レポートをはじめとする情報を活用しながら、業界用語の解説などのサポートが期待できる「ガイド役」とともに投資を考えてみてはどうだろうか。M

■ 図表1 世界の半導体メーカー収益ランキング (2023年)

順位	企業名	収益 (億米ドル)	市場シェア (%)	前年収益 (億米ドル)	成長率 (%)
1	インテル	486.64	9.1	584.36	-16.7
2	サムスン電子	399.05	7.5	638.23	-37.5
3	クアルコム	290.15	5.4	347.80	-16.6
4	ブロードコム	255.85	4.8	238.68	7.2
5	エヌビディア	239.83	4.5	153.31	56.4
6	SKハイニックス	227.56	4.3	335.05	-32.1
7	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ	223.05	4.2	236.20	-5.6
8	STマイクロエレクトロニクス	170.57	3.2	158.42	7.7
9	アップル	170.50	3.2	180.99	-5.8
10	テキサス・インスツルメンツ	165.37	3.1	188.44	-12.2

(出所)ガートナー社プレスリリース(2024/1/16)をもとに当社作成

■ 図表2 世界の半導体市場規模の推移



*2023年以降は推計、予測値

(出所)世界半導体市場統計をもとに当社作成

■ 図表3 半導体関連企業の主要製品とソフトバンクグループの半導体との関わり

企業名	証券コード	日経平均構成比
半導体関連の主要製品等		
東京エレクトロン	8035	7.5%
微細化にも貢献する幅広いラインナップの製造装置		
アドバンテスト	6857	3.8%
テスタ(検査装置)		
信越化学	4063	2.9%
半導体の基板となるシリコンウエハや回路を焼き付けるときに使用する感光材など様々な材料を取り扱う		
京セラ	6971	1.6%
半導体装置用のセラミック部品、半導体パッケージ		
レーザーテック	6920	1.5%
半導体回路をウエハに転写する際の原版となるフォトマスクやその材料のマスクブランクス欠陥検査装置		
ソニーグループ	6758	1.3%
スマホカメラ等に搭載されるイメージセンサー		
ディスコ	6146	—
半導体製造の工程で使われる高精度の切削、研磨機器		
ソフトバンクグループ	9984	3.8%
半導体設計のアームホールディングスの株式の90%を保有(2023年9月末時点)		

*日経平均構成比は2023年末時点

(出所)各社ホームページ、QUICK等をもとに当社作成